

今、まさに成長期!!

琉球大学医学部附属病院 研修医1年目
 當 山 昌 那 (25期生)



同窓会の皆さま初めまして。今年4月から医師としての新しい一歩を踏み出した研修医1年目の當山昌那と申します。現在私は初期研修システムとしてRyuMICのプログラムを選択し、初っ端の三ヶ月間を耳鼻咽喉科で研修しております。今回は恐縮ではございますが研修医である私の視点からの耳鼻咽喉科の現況を皆様にご紹介させていただきます。

私が耳鼻咽喉科のイメージとして最初に思い浮かぶのは、他科と比較した際の圧倒的な患者数、症例数の多さです。日々の業務をこなすために耳鼻咽喉科の医局員は、教授の鈴木幹男先生を中心に、多くの先生方が大学病院をはじめとして県内中の病院、あるいは県外の関連病院をパワフルに動き回っているのがとても印象的でした。特に大学病院では数多くの外来患者を診療するだけでなく、難易度の高い手術や重症患者の多い病棟管理を医局員全員のチームワークで一生懸命にこなしている姿がみられます。そんなお忙しい中でも時間を見つけては研修医である私に対して各方面から指導して下さり、私も教えて頂いた知識や技術を生かして、微力ながら先生方の手伝いをこなす、精一杯ながらも充実した毎日を送っています。

耳鼻咽喉科の扱う領域は「耳」「鼻」「言語・音声」「嚥下」「咽頭」「喉頭」「腫瘍」「形成」など多種多様に細分されており、各分野においてそれぞ

れのエキスパートの先生方がいらっしゃいます。分野としては互いに独立してはいますが、医局カンファレンス等を通して常にお互いの患者の情報交換や意見交換をしたり、またグループを超えて患者さんのフォローなども行われています。

最近では臨床の分野だけでなく、研究の分野においても医局長の真栄田先生を中心にして力を入れており、大学病院としてのあるべき姿をみることが出来ます。

若い先生方の教育にも熱心で、後期研修が始まったばかりの先生方も上級医の先生の指導の下で数多くの学会に参加されています。また若い後期研修医の先生方が忙しいながらも楽しそうに仕事をこなしている活気のある姿は、将来の自分の姿と照らし合わせてもとても希望に満ちたものです。

以前他の医局の先生から聞いた話なのですが、「若い医者が活動的な病院は病院全体が活気づいて成長していく病院だ」そうです。これを組織に置き換えて考えてみると、今の耳鼻咽喉科の医局はまさに若い力を中心としてベテランの先生方も若い先生方も一体となった、これから大きく成長していくであろう医局だと実感しました。私自身が2年後に入局する日までには今以上の素晴らしい医局になっているであろうと、自然と期待も膨らんでいます。

最後になりましたが、耳鼻咽喉科に限らず、初期研修医や他の医局の後期研修医の先生方のもつ若い力を存分に発揮して、病院全体を盛り上げていきましょう！